

松平家墓所

この墓地は、姫路城の名ばかりの 9 代目藩主の松平直基（1604-1648）を祀っている。直基は、1648 年に姫路藩の藩主に任命されたが、遙か東北の山形県の旧藩から姫路への移動中に亡くなってしまった。家督は息子の直矩（1642-1695）が継いだ。直基は神奈川県最乗寺に埋葬されていたが、1670 年に短い在任期間ではあったものの、姫路藩主としてここに墓所が直矩によって移され、建立された。江戸時代（1603-1867）、藩主は将軍によって決められ認証されたが、幕府は大名の治める地域への影響を制限し、武装蜂起を防ぐために、大名を頻繁に入れ替え、異なる地域へ移封させた。直基と直矩はともに、何度も藩の変更を余儀なくされた。二人の経歴から「ひっこし大名」のあだ名をつけられた。

壁に囲まれた中央にある仏塔には、仏教宇宙論の 5 つの要素を表す漢字が刻まれている。上から「空」、「風」、「火」、「水」、「土」と書かれている。一番下の「土」の文字の周りには、直基死後の戒名と彼のさまざまな称号や階級が刻まれている。

周りの石の壁は何世紀も経ているので、一部壊れており、最前部のみが 17 世紀の壁の外観を保っている。霊廟の向こう側の壁は、元の石を使用して再建されたが、本来は均一な高さであった。